



DOCKET NO.: 297122US0PCT

IFW

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF:

Toshio NAGASAKA, et al.

SERIAL NO: 10/594,987

GROUP:

FILED: September 29, 2006

EXAMINER:

FOR: IMPACT RESISTANCE MODIFIER AND RESIN COMPOSITION

LETTER

Mail Stop DD
Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

Submitted herewith are two annex pages of JP 55-27576, describing the amendment after publication of the examined application. The reference was previously filed on December 29, 2006.

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.
Norman F. Oblon

Paul J. Killos
Registration No. 58,014

Customer Number

22850

Tel. (703) 413-3000
Fax. (703) 413-2220
(OSMMN 03/06)

昭和49年特許願第38837号(特公昭57-55724号、昭57.11.26発行の特許公報3(3)-93〔248〕号掲載)については特許法第64条の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。

特許第1199371号

Int. Cl.³
C 08 G 63/30
//C 07 C 67/02

識別記号 庁内整理番号
6537-4 J
6556-4 H

記

1 第3欄23~24行「ポリテトラエチレングリコール」を「ポリテトラメチレングリコール」と補正する。

昭和47年特許願第109811号(特公昭55-27576号、昭55.7.22発行の特許公報3(3)-45〔45〕号掲載)については特許法第64条の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。

特許第1199485号

Int. Cl.³
C 08 L 51/00

識別記号 庁内整理番号
7167-4 J

記

1 「特許請求の範囲」の項を「1 アルキル基が1~4個の炭素原子を有するアルキルメタアクリレート、スチレン、置換スチレン、アクリロニトリル、メタアクリロニトリルおよびこれらの混合物よりなる群から選ばれた単量体を重合させた硬質熱可塑性重合体、又は前記単量体の少なくとも一種の50重量%以上とこれと共重合可能なモノエチレン性不飽和単量体の少なくとも一種との共重合体の形の硬質熱可塑性重合体約10~96重量%と、下記3段階又はそれ以上の段階重合体約90~4重量%とのブレンドよりなる微粒で、すぐれた透明性、耐衝撃性を有するストレス白化のない熱可塑性組成物、但し該多段階重合体は、

- (A) 前記硬質熱可塑性重合体用の少なくとも1種の単量体70~100重量%、他の共重合性単量体30~0重量%よりなる単量体混合物を乳化重合せしめて得られた25℃以上のガラス転移温度を有するエラストマーでない比較的硬質の第一段階、
- (B) 第一段階に含まれる生成物の存在下に、ブタジエン、置換ブタジエン、アルキル基が1~8個の炭素原子を有するアルキルアクリレートもしくはその混合物50~99.9重量%、共重合性のモノエチレン性不飽和単量体0~49.9重量%、共重合性の多官能、架橋性単量体0~5.0重量%およびアクリル酸、メタクリル酸、マレイン酸もしくはフマル酸から選ばれた酸のアリル、メタリルもしくはクロチルエステルから選ばれた共重合性グラフト結合性単量体0.05~5.0重量%からなる単量体混合物を乳化重合せしめて得られた中間のエラストマー段階、該エラストマー段階重合体は、第一段階に含まれる生成物の存在することなく単量体を重合せしめると25℃又はそれ以下のガラス転移温度を示すものであり、
- (C) 上記第一段階および中間段階に含まれる生成物の存在下に、前記硬質熱可塑性重合体用の少なくとも一つの単量体70~100重量%、他の共重合性単量体30~0重量%よりなる単量体混合物を乳化重合せしめて得られた最終段階、但し該最終段階重合体は、第一段階および中間段階に含まれる生成物が存在することなく単量体を重合せしめると25℃以上のガラス転移温度を示すものの3段階重合体組成物、又は同重合体組成物に前記単量体と同一又は異なる単量体を、異なる割合で乳化重合して

得られた硬質又はエラストマー重合体を第一段階、中間段階又は最終段階として、交互に位置づけられる態様で附加してなる多段階重合体組成物である。」と補正する。

昭和50年特許願第139337号(特公昭55-6677号、昭55.2.19発行の特許公報3(3)-11〔11〕号掲載)については特許法第64条の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。

特許第1199694号

Int. Cl.³
C 10 B 57/00

識別記号 庁内整理番号
8018-4H

記

1 「特許請求の範囲」の項を「1 各原料炭を各原料炭毎に貯炭ヤードからベルトコンベアで配合槽へ移送し、各原料炭の水分及び灰分値に基づいて各原料炭の切出量比率を設定し、該比率により各配合槽より各原料炭を切出し、配合炭を調製する原料炭の配合管理方法において、前記の原料炭の水分及び灰分値として；

- (イ) 貯炭ヤードから配合槽へ移送中の各原料炭より系統的に自動サンプリングを行い；
- (ロ) 採取試料を混合し、粒子径3mm以下に粉碎し；
- (ハ) 粉碎試料をベルトコンベアで移動させながら、自動サンブラで系統的に約15gの試料を10ヶ採取し、各々を電子計算機に連結された電子天秤で秤量し；
- (ニ) 各秤量試料を107±2℃の熱風下で5分間自動的に乾燥した後、再び該電子天秤で秤量し、電子計算機にて各試料の水分値を、更に各水分値より平均水分値を求め；
- (ホ) 水分測定済試料を合併し、これにて放射性同位元素⁵⁵Feを照射しその後方散乱X線強度による灰分を測定し；
- (ヘ) 前記操作はロボットによる自動操作とする；

ことにより得られた水分及び灰分値を用いることを特徴とする原料炭の配合管理方法。」と補正する。

2 第2欄9～10行「放射性同位元素照射による後方散乱X線強度」を「放射性同位元素⁵⁵Feを照射しその後方散乱X線強度」と補正する。

昭和52年特許願第13595号(特公昭57-11356号、昭57.3.3発行の特許公報3(3)-18〔173〕号掲載)については特許法第64条の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。

特許第1199970号

Int. Cl.³
C 11 B 5/00
C 07 C 51/50
67/62

識別記号 庁内整理番号
6556-4H
8318-4H
6556-4H

記

- 1 「発明の名称」の項を、「油脂類または不飽和脂肪酸エステルの抗酸化剤」と補正する。
- 2 「特許請求の範囲」を項を「1 トコフェロール類及び核酸からなる油脂類または不飽和脂肪酸エステルの抗酸化剤。
- 2 核酸がデオキシリボ核酸である特許請求の範囲第1項記載の抗酸化剤。